

小山 正孝（おやま・まさたか）

1、プロフィール

詩人。「山の樹」、「阿房」同人。「四季」で編集実務を担当。「胡桃」、「文學館」創刊同人。第八詩集『十二月感泣集』で第七回丸山薫賞受賞。四季派学会理事。

<生没>

1916(大正5)年6月29日～2002(平成14)年12月13日

<代表作>

詩集『雪つぶて』、『逃げ水』、『愛しあふ男女』、『風毛と雨血』、『山居乱信』、『十二月感泣集』等

<青森との関わり>

昭和11年4月、府立四中より弘前高校文科乙類に進み北冥寮生活後、紙漉町に下宿。小山内時雄と文芸部で活躍。

2、作家解説

大正5年6月29日、東京青山に生まれる。

昭和11年4月、府立四中から弘前高校文科乙類に進む。文芸部で活躍し、校友会誌に毎回小説を発表。

13年7月、弘前から帰省中、杉浦明平から立原道造を紹介される。10月、弘前から盛岡〈生々洞〉に滞在中の立原を訪ねる。

14年4月、東京帝国大学文学部支那文学科に入学。16年12月、繰り上げ卒業。卒業論文は「魯迅」である。

日本文学研究所所員となる。17年8月、日本出版文化協会に入社。18年4月、日本出版会に入社。

20年4月、召集されるが、健康上の理由で除隊。

10月、文明社に入社。42年7月、中央公論社嘱託。43年、関東短期大学講師。44年4月、助教授。53年4月、教授。62年3月定年退職。

昭和14年9月、中村真一郎・村次郎等の「山の樹」同人。11月、山崎剛太郎等の「阿房」同人。17年9月、「四季」の編集実務を担当。21年7月、「胡桃」創刊。42年12月、「四季」(第四次)同人。58年1月、「文學館」創刊同人。

昭和16年の『立原道造全集』(山本書店)、32年の『立原道造全集』(角川書店)、42年の『立原道造全集』(弥生書房)、46年の『立原道造全集』(角川書店)、49年の『津村信夫全集』(角川書店)を編集。44・58年に『杜甫』(平凡社)を共訳。

詩集は昭和21年6月に『雪つぶて』(赤坂書店)、30年11月に『逃げ水』(ユリイカ)、32年4月に『愛しあふ男女』(ユリイカ)、43年4月に『散ル木の葉』(思潮社)、46年5月に『山の奥』(潮流社)、52年7月に『風毛と雨血』(思潮社)、61年5月に『山居乱信』(潮流社)、平成3年6月に『小山正孝詩集』(思潮社)、11年8月に『十二月感泣集』(潮流社)第七回丸山薫賞受賞がある。

四季派学会理事。平成13年6月、日本現代詩人会より「先達詩人の顕彰」を受ける。

14年12月、肺炎で関東労災病院にて死去。16年6月、創作集『感泣旅行覚え書』め12月に『詩人薄命』が潮流社から坂口昌明(詩人・評論家)編集で刊行される。

3、資料紹介

○『雪つぶて』

図書

1946(昭和21)年6月20日

180mm× mm (145ページ)

弘前高等学校の青春時代が基層にある作品28篇が収められている。赤坂書店で発行。〈雪〉とは津軽の雪であり、〈つぶて〉とは青年の反抗である。感情の詩であり、官能を肯定した詩である。裸の魂を表出している。抒情的であり、心理的である。